

--	--

## 議 事 録

会 議 名	第12回 杉並区児童館等のあり方検討会	
日 時	平成18年9月14日(木) 19時00分～20時55分	
場 所	杉並区役所 第5・6会議室	
出席者	委 員	菅原副会長、川村委員、能登山委員、野田委員、花井委員、吉開委員、中井委員、仁比委員、上原委員、加藤委員、重藤委員
	事 務 局	[教育委員会事務局] 松岡庶務課長 [児童館] 岡崎成田西児童館主査、大浦堀ノ内東児童館主事、島田下井草児童館主事、畠山和泉児童館主事 [児童青少年課] 白垣児童青少年課長、小林康夫計画調整担当係長、阿部事業係長、林田管理係主査、横関児童館運営係主査、小林武彦事業係主査、土田管理係主事
傍聴者	6名	
配付資料	事 前	1 第11回検討会議事録 2 児童館等のあり方検討会報告書(素案)(資料39)
	当 日	1 会議次第 2 今後の進め方について(予定)(資料40) 3 児童館等のあり方検討会報告書(素案)巻末資料
会議次第	1 開会挨拶 2 第11回議事録について 3 資料説明 4 検討会報告書骨子(案)について 5 今後の進め方について	
発 言 者	発 言 内 容	
1 開会		
会 長 代 理	《開会挨拶》	
児童青少年課長	本日会長は体調を崩されてドクターストップというご連絡をいただきましたので、副会長に進行をお願いしております。	
2 第11回議事録について		
会 長 代 理	既に配布されている第11回の議事録について確認させていただきたいと思えます。前回さまざまな議論がありまして、非常に丁寧に発言を記録していただいておりますが、訂正がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。	
	《異議なし》	
会 長 代 理	では、第11回の議事録を確定させていただきます。	
3 資料説明		
会 長 代 理	本日の配布資料について事務局から説明をお願いします。	
児童青少年課長	説明の前に2箇所訂正をお願いいたします。資料39の5・6ページですが、(2)の3つ目のマルが(1)の2番目に移ります。もう一点誤りがございまして、6頁(2)の1つ目のマルの下から2行目、「小学校低学年の居場所機能をベースにしながら」とありますが「小学生の身近な居場所機能をベースにしながら」に訂正をお願いいたします。以上2箇所の訂正がございました。	

児童青少年課 長	《資料39について説明》
児童青少年課 長	もう1箇所文言の整理をお願いしたいのは、資料39の9頁、始めのマルの部分で「子どもの自立通所が前提である」とありますが「子どもの自立通所が原則である」に訂正していただければと思います。また、巻末資料の目次部分ですが、資料2「子どもの意見との意見交換及びアンケートの集計結果」の「の意見」を削除していただき「子どもとの意見交換及びアンケートの集計結果」に訂正をお願いします。
4 検討会報告書（素案）について	
会長代理	それでは始めからそれぞれの項目ごとに確認をしていきたいと思います。事務局が新たに付け加えた部分もありますので、そういうところも含めまして確認していきたいと思います。1頁の「はじめに」の部分について表現や内容についてご意見はありますか。
	《異議なし》
会長代理	それでは次頁に進みまして、3頁の本文から見ていきたいと思います。1項目目「児童館・学童クラブを取り巻く現状と課題」についてはいかがでしょうか。
委員	(1)の2つ目のマル、一番最後の部分にかかりますが、「一般来館児童の利用が制約されている児童館も見られる」とありますが、制度としてここまでですよという制限をかけているのが「制約」ということだと思いますが、そこまでの制限はかかっていますでしょうか。 「来にくい」というのと、こういう状態なので「制約をかけています」というのは違うと思います。「制約」というと明らかに利用があつてこういうようにしているということになりますので、この文言がふさわしいのかということです。いかがでしょうか。
会長代理	確かに強い文言のような気がします。ニュアンスとしては一般来館児童が来にくくなっているということですね。
委員	何か制度的な制限をかけていけば別ですが、そこは記憶になかったので確認したかったのですが、いかがでしょうか。
児童青少年課 長	これは事実上、一般利用の利用者数が落ちているということであつて「これ以上もう入れませんから来ないでください」というようなことではありません。事実上利用者が減っているということです。
委員	部屋単位で見た場合はどうでしょうか。例えば体育館の使用が現実問題としてかなり制約されている面もありますが、それを記載するかということだと思います。
会長代理	どうでしょうか。いまの件についてご意見はありますか。
委員	要は「利用しにくくなっている」ということです。ここでは報告書の用語としてこだわるよりは、意味が解りやすいほうが大事だと思いますので、「利用しにくい」という状況であれば、少なくとも「制約」という形で、制度的に制限をかけられているというニュアンスを外すという意味では、「一般来館児童の利用がしにくい、あるいは利用しにくくなっている児童館がある」とあっさり書いても良いと思います。
会長代理	いかがでしょうか。スマートに、いまおっしゃった来館者が減っているという事実を付け加えても良いかもしれませんけれども。
委員	問題意識を強調するという意味で、あえて使用するということがあると思います。
児童青少年課 長	少なくとも「事実上」という文言を付け加えないと、あえて「これ以上は入れません」と言っているという誤解を与えることがないとも限りません。「利用しにくくなっている」ということでよろしければ、そのように訂正します。
会長代理	では、ここは「利用しにくい」という表現をお願いします。そのほかいかがでしょうか。先ほど(2)の4つ目のマルについては、庁内の検討待ちで削除ということになりましたけれども、その他のところはいかがですか。

	《異議なし》
会長代理	次に4・5頁に進ませていただきます。「(3)学童クラブの需要数の増大への対応」「(4)区民・NPO等の活動の活発化と協働等の推進」についてはいかがでしょうか。
委員	(3)の2つ目のマルですが、先ほど別の委員のご発言と関連しますが、「遊べるスペースが手狭になることから、一般来館児童の利用が減る傾向にあり」とあります。スペースの減少と来館児童の減少を関連付けた表現になっていますが、実際そうなのかどうか良くわからなくなってきました。 つまり全体として、小学生の数が減ってきている中で、学童クラブに登録している児童が増えているということは、それだけ一般来館児童の母数が減ってきているわけですから、減って当たり前の話で、果たしてスペースが減って来にくくなって数が減ったのか、必ずしも関連性はないのかもしれないと思いました。
児童青少年課長	その辺の相関関係については、本日お配りした報告書(素案)の巻末資料の資料3「児童館小学生利用数と学童クラブ出席数」の下のグラフを見ていただくと、ある程度傾向がお解かりになると思います。 縦計が学童クラブ登録児童の占める割合で、横計が学童クラブ出席児童数になっています。学童クラブの児童数が少なければ学童クラブ登録児童数の占める割合は低い。つまり一般来館児童の利用が高いということが言えると思います。 実数としてどうかと言うと、小学生の利用は少しですが伸びています。その中で割合として分布が右肩上がりというのがお解かりいただけると思います。 児童数が増えていくと、学童クラブの児童数の占める割合が高くなるという傾向は間違いなく相関関係としてあります。
会長代理	いかがでしょうか。はっきりとした因果関係は、スペースが狭くなったとは言えないかもしれませんが、巻末の資料3の学童クラブ出席数と学童クラブ児童数の児童館利用者に占める割合から類推可能だということです。
委員	利用しづらくなっているだろうということは想像つきますが、それが原因で数が減っているというのはどうでしょうか。
児童青少年課長	遊べるスペースが手狭になることだけが原因なのかというところですね。
委員	確かにそのとおりです。巻末の資料3の相関関係は確かに明らかです。仮に先ほど委員がおっしゃったように、児童の母数が決まっている中で、一般来館児童から学童クラブに回る子どもの数が多くなれば、当然割合が高くなるとも考えられます。これは本当のところは解りません。この相関関係だけで、先ほど委員が言われたようなことが否定されるわけではないと思います。 だとすれば、遊べるスペースが手狭になったことは確かだろうから、「そういうこともあって」というような表現にして、一因としてそういうことも考えられるかもしれないとしてはどうでしょうか。この「手狭になることから利用が減る」という表現では言い切りになってしまいますので、原因はもう少しいくつかあるかもしれないという意味では、「学童クラブの登録児童数が多い児童館においては、遊べるスペースが手狭になることもあって」というようにして、それも一因として減る傾向にあるという表現であれば良いのではないかと思います。いかがでしょうか。
委員	私はこの検討会では、問題点は問題点としてはっきりさせた方が良いと思いますので、このくらいの表現をしたほうが良いと思います。実際に手狭になっていることは確かですし、検討会の報告書として問題点をはっきりさせるために、このくらいの表現があっても良いと思います。
児童青少年課長	例えば、この文言もある程度活かし、先ほどの委員のご指摘も活かしながら、折衷案的ではありますが、「手狭になることもあり」という表現ではいかがでしょうか。
会長代理	いかがでしょうか。
児童青少年	「手狭になることもあり」ですと、その後に「一般来館児童の利用が減る傾向に

課長	あり」と、「あり」という表現が続いてしまいますので、「手狭になることもあって」ではいかがでしょうか。
委員	やはり現状を知らない人にとってみれば、手狭になることがあるなら、もう少し工夫があるのではないかと思うと思います。現状は深刻があるのでこのくらいの表現はあっても良いと思います。
会長代理	いかがでしょうか。
委員	登録制になってスペースがとられてしまいましたよね。これからどんどん登録児童が増えていくとスペースがなくなるというのが問題になってきます。「一般来館児童が減る傾向にあり」という中で「減る」という言葉は引っかかりますが、そのために減ってしまうのか、利用が減るというよりも学童が多くなってくるとその部分だけスペースが減ってしまうということですよ。
委員	減るといってより圧迫ですよ。
委員	子どもの利用が減るといってよりスペースが減るわけですよ。その表現がうまくできればと思います。
会長代理	いまの部分については繰り返し議論してきたところです。上手く表現できればと思いますが。
委員	「転用したところもあり」まではそのまま良いと思いますが、「一般来館児童の利用できるスペースが減る」の部分に、「手狭になる」という言葉を上手くはめ込ませてしまえば、言っていることは同じですので、二つの文章が一緒になりまとまるような気がします。
会長代理	そうですね。あとは日本語の修正ということになると思います。
委員	空間の圧迫というのをきちんと強調したいですよ。
委員	一般来館児童が減ることに問題があるように書かれていますが、そうではないですよ。
会長代理	一回文章を切っても良いかもしれませんね。「一部のスペースを学童クラブの育成室として転用したところもあり、遊べるスペースが手狭になっている」「そのため、一般来館児童の利用も減る傾向にあり、学童クラブの児童も一般来館者も共にゆったりと過ごす場所が求められている」というように一回切るのはどうでしょうか。スペースが手狭になっていることを強調できるように、事務局の方で今すぐ文章がまとまりますでしょうか。
児童青少年課長	まとめさせていただくと、「学童クラブ育成室として転用したところもあり、遊べるスペースが手狭になっている。そのため、一般来館児童の利用が減る傾向がある」とつなげていくというのではどうでしょうか。
委員	「遊べるスペースが手狭になっている」で一旦切りましたね。そこで切ると、学童クラブ登録児童が多いということ、遊べるスペースが手狭であるということ、あえて言えば二つのことがあって、だからこそ「転用したところもある」という言い方をしています。そうすると、それを受けて「そのような学童クラブでは、一般来館児童の利用が減る傾向にあり」というようにつなげば、登録児童が多いということとスペースが手狭だということの両方を受けて、来館児童が減る傾向にあるということが言えるのではないかと思います。一旦切って、そのような学童クラブでは「一般来館児童の利用が減る」というのにつないではいかがでしょうか。
会長代理	いかがでしょうか。
	《異議なし》
会長代理	それではもう一度確認いたしますが、「学童クラブの登録児童数が多い児童館においては、一部のスペースを学童クラブ育成室として転用したところもあり、遊べるスペースが手狭になった児童館もある。そのような児童館では、一般来館児童の利用が減る傾向にあり」とつなげるということではよろしいですか。

委 員	前段部分は例示ですから「遊べるスペースが手狭になっている」という締め方で良いと思います。
会長代理	はい。それでは落ち着きたいと思います。（４）まで含めて他はいかがでしょうか。注釈も含めてよろしいですか。
委 員	質問ですが、（４）の１つ目のマルのところの「区民・NPO等との協働」の後は「イコール」ですか。
事務局	加除訂正した部分をわかりやすくした見え消しになっていますので、「イコール」ではなく「二重取り消し線」になります。「区民・NPO等との協働、民営化・民営委託」となります。
会長代理	それでは５頁に移りまして、かなり変更があった部分ですが、２項目目「これからの児童館の目指すべき方向」はいかがでしょうか。タイトルを変更し順番も変更になっていますがどうでしょうか。 「（１）放課後の子どもの居場所づくりの再構築」から始まってつながっていきます。（１）の１つ目のマルについてはいかがですか。
	《異議なし》
会長代理	２つ目のマルはいかがでしょうか。
委 員	この言葉が良くわかりませんが、「地域ぐるみで教育立区」というのは注釈がありますけれども、もう少し具体的にご説明をお願いいたします。
会長代理	注釈として説明を増やした方が良いということですか。
委 員	本文を読んだときに「教育立区」という言葉が入っていますが、注釈を読みますと『区のめざすべき将来像として掲げた「人が育ち 人が活きる杉並区」を実現するため、人を育てるという観点から、「教育に支援を惜しまない地域社会を築くこと」「区のすべての施策に教育の視点を取りこむこと。』とありますが、すべての視点に教育の視点を取りこむこととは、どういうことでしょうか。
庶務課長	私からご説明申し上げます。以前も「教育立区」につきましては若干ご説明させていただきましたが、いま区政の三本柱の一つとして「教育立区」が掲げられています。ここで言っている教育とは「人を育てる」ということになります。教育というどうしても学校教育という感覚を捉えがちですが、ここで言う教育は大きく人を育てる「人づくり」というように捉えていただきたいと思います。 区のすべての施策、教育委員会や学校が取り組んでいることのみならず、様々な、例えば保健福祉部門でありますとか区民生活部門などの政策にも、如何に人を育てていくか、また育てた方がどう活きるかという視点を盛り込んで、区の施策全般を展開していきましょうという考え方で捉えていただければよろしいかと思っております。
委 員	よく行政は、縦割り縦割りというように言われますが、そういうことを取り払って、「人を育てる」という視点から捉えるということでしょうか。
庶務課長	そういうことになります。従来、例えばどんな事業でも良いのですが、教育委員会以外の事業で、あまり人を育てるという視点には立たずに、その事業だけ取り組むという印象がありました。 その視点を、「人を育てる」という視点からもう一度見直して行きましょう。その時に区が今までやってきている施策が、「人を育てる」という点から、もっと展開できるのではないだろうかという考え方です。すべての施策が「人を育てる」というものと直結するかどうかは無理がありますが、単に教育は教育委員会だけというのではなくて、すべての施策に「人づくり、人を育てる」という視点を取り入れましょうという考え方というように受け止めていただければと思います。
委 員	すごく嬉しい言葉だと思います。私も様々な課とお付き合いがありますが、それぞれ人を育てるという取り組みはしていますが、その連携がなかなか難しいもので、この報告書ではっきり謳われることはすごく良いと思います。よろしくお願ひします。
委 員	「教育立区」そのものの発想はすごく良いことだと思います。文言としてのお話ですが、この４行の文章だけ読んでみると、さっぱり意味が解りません。見え消し

	<p>があって何回か議論をしているのでなんとなく解るような気がしますが、見え消しをとって読んでみると、何のことか解りません。一番まずい文章だと思います。</p> <p>前段の「児童館・学童クラブはこういうことを育んでいます」ということと、後段の「教育立区の視点にも配慮した運営」が全くつながってきません。特に視点・配慮という言葉を使うと、まるで気にしているだけの文章にも見えてしまいます。</p> <p>ここはもちろん「教育立区」という言葉を前面に出すのは反対ではありませんが、何と連携しようとしているのか、ある程度具体性を入れないと、読んだ人は解らないと思います。</p>
会長代理	確かにそうです。
委員	「育んでいるが」の「が」は反語ですし、「配慮する」というのは非常にネガティブな言葉です。前回の議論からつながっているの解っているような気がするだけで、言葉的には全然できていないと思います。
会長代理	何か「地域ぐるみで教育立区」の中身を示すものがあれば、何となくイメージがつかめるのではないのでしょうか。
委員	例えば、何かしら引用を入れるとか。
会長代理	前段とつながるようなものにできれば良いと思います。区の施策全般で人づくりを謳っているというご説明がありましたが、そのことと、いまの前段の部分がうまくつながるようにして欲しいと思います。「が」が反語になっています。「が、しかし」さらにそれを発展させてというか、区の施策につなげて行って相互に連携を深めていくということだと思います。
委員	そうですね。この視点があるということは根拠になるはずなので、上手く使っていければと思います。
会長代理	「人づくり」ということで中身ははっきりするのでしょうか。区の施策全般に広く人づくりを謳っている「地域ぐるみで教育立区」の視点にも配慮してというのはおかしいですかね。
委員	消した部分の学校との連携というのをつなげてはまずいのでしょうか。
委員	「学校との連携だけではない」という説明を受けた記憶があります。
委員	<p>前回の議論でもそうだったと思いますが、会長からも「連携の相手方は学校だけではないだろう」というご意見をいただいています。「教育立区」というものを広く捉えれば、捉えるというよりもともと広いものですが、学校だけをあえて取り上げて連携だけではないでしょうという議論が前回ありました。</p> <p>ですので、見え消しの部分を一部復活しながら、「学校や地域で取組めるということにも配慮」、配慮という言葉自体どうかというのがありますが、地域で様々な人づくりの事業や取り組みが行われていて、そういうこととも連携した運営を進め、最初の部分で消している「学校との連携」の連携を活かすとすれば、後の見え消しの部分では「学校で取組まれていること」になっていますが、「学校や地域で取組まれている」あるいは「学校や地域での人づくりの取組みに連携した運営を進めていく必要がある」というようにすれば、もう少し解りやすくなると思います。</p>
委員	すべて消しあっている気がします。「区が掲げている教育立区の視点に鑑み、学校・地域等との連携を強く進めるような運営をする」とすると、今後やろうとする検討の内容にかかってくると思います。協働にしても何にしても連携を強化していく検討です。
会長代理	「連携を一層深めた運営をする」ということですね。
委員	学校を特定するのを外すことはいままでの議論どおりですが、連携を一層深めるというのが本来のこの言葉になると思います。
会長代理	そうしますと『児童館・学童クラブは、日常の遊びやプログラム、放課後の保育を通し、子どもの自主性、社会性、創造性、協調性等を育んでいるが、区が掲げている「地域ぐるみで教育立区」の視点に鑑み、学校・地域等との連携を一層深めた運営を進めていく必要がある』というような感じでよろしいのでしょうか。

児童青少年課長	「一層深めた人づくりの取組み」人づくりという言葉を入れた方がよろしいですか。
会長代理	そうですね。いかがでしょうか。
	《異議なし》
会長代理	そのように一部復活という形にしたいと思います。それでは、次の6頁「(2) 年齢層ごとのニーズや施設の状況に応じた特色のある運営の推進」に移りたいと思います。ここは、一番私たちが議論してきたところですが、一つひとつ確認していきたいと思います。
委員	「障害児」は入れるべきですかね。言おうとしていることは解りますが、ここであえて「障害児」という言葉を入れて、その後すぐに「それぞれの発達段階」と書かれているので、ここだけ見るとどうかと思います。 障害児のお子さんをお持ちの方は、そういう文章に敏感になりますので、もう少し配慮する文章表現が良いと思います。
会長代理	私もそのように思いました。発達段階と年齢層は似ているので、それぞれの発達の特徴とか、それぞれの年齢段階にそれぞれの発達段階があって、その中に「障害児」が常にかぶってきます。
委員	先ほど委員が言われて思いましたが、「障害児」ということでくくらないで、乳幼児や小学生、中・高校生には当然、障害のある方もない方も含まれていて、それが普通であるという考えに立てば、その中で「障害児」というのを取り出して論じなくても良いという感じはします。
会長代理	実際私たちは、そこを取り出して細かく議論して、そのことは9頁の「3 (4) 障害児の放課後支援の充実」に活かされていますので、そういう意味ではこの(2)に記載がなくても充分だと思いますがいかがでしょうか。
委員	全般的に通じるようであれば構わないと思います。
会長代理	それでは「乳幼児、小学生、中・高校生それぞれの」という表現とします。(2)はよろしいですか。続いて「(3) 地域の子育て支援の拠点としての機能強化」はいかがでしょうか。 私は1つ目のマルの「家庭が本来の子育て機能を果たしていけるよう」という表現は、少し強いのかなと思いますがいかがでしょうか。本来のものを失っているのではないかということですよ。時代とともに変わっていくし、努力はしているでしょうが、少し強いような気がします。 「本来の子育て機能」とは何かと聞かれたときに、「杉並区は箇条書きで示せるのか」と言われそうな気がします。
委員	私もそのように感じました。本来の子育てはどうなのという議論はしていないので、「子育て機能」が良いのではないかと思います。
会長代理	でも「果たしていけるよう」とありますので、この動詞を変えないといけないと思います。
委員	「子育て機能の向上」はいかがでしょうか。
会長代理	「子育て機能の向上」も強い気がします。
委員	「子育て機能の充実」ではどうですか。
会長代理	「子育て機能の充実を支援してけるようなプログラムの充実」ですかね。そうすると後段に支援が出てきますので重なってしまいますね。 「家庭が子育て機能を充実していけるよう」ではどうでしょうか。
委員	「家庭が子育て機能を促していけるような」ではどうでしょうか。
委員	「家庭が子育て機能を充実しているよう」でよいのではないのでしょうか。
会長代理	「家庭が子育て機能を充実していけるよう、」でよろしいでしょうか。

委 員	「充実」が重なってしまいますね。
委 員	もっと解りやすい言葉で「健やかな子どもの成長」などにした方が、後に続く「充実」や「支援」につながるのではないかと思います。やわらかい表現が良いと思います。
会長代理	「家庭での子育てが健やかに進むよう」ということですね。
児童青少年課長	「健やかに」という文言を入れるのであれば「健やかな子育て」とはあまり言わないような気がしますので、「家庭で健やかに子どもが成長していけるよう」という表現になるかと思います。
委 員	「心身ともに健やかに」ではいかがでしょうか。
会長代理	いまのをすべて入れ込むとしたらどうなりますでしょうか。
児童青少年課長	全部入れると「家庭で心身ともに子どもが健やかに成長していけるよう」というようになります。
委 員	まとめにかけているのであえて言うのは何ですが、ここはどちらかというプログラムの充実や職員の専門性の向上ということで、明らかに家庭への支援を記載しています。「的確な」という表現はいらないと思いますが、家庭への支援をしていくということになると、子どもが家庭で心身ともに育っていくというよりは「家庭が子どもを健やかに育てられるようにプログラムを充実したりして支援を行っていく」というようにした方がより文脈としては良いと思います。
会長代理	それがいまここでは「子育て機能」という一言なわけですね。
委 員	10頁の「3（5）保護者・家庭支援の充実」のところで、2つ目のマルに「保護者の養育力を高めるために」という話をしております。ですからここであえて保護者の養育力であるとか、子育て機能という言葉を使うよりは「家庭が子どもたちを心身ともに健やかに育てていけるように支援していく」という文脈にしたらいかがかと思います。
会長代理	いかがでしょうか。
	《異議なし》
会長代理	いまのところは「育てていけるように」というように語尾を変えたいと思います。
児童青少年課長	そうしますと「家庭が子どもたちを心身ともに健やかに育てていけるように」ということでよろしいですね。
会長代理	それでは次のマルは「地域子育てネットワーク」についてですがどうでしょうか。よろしいでしょうか。
	《異議なし》
会長代理	次の「（4）協働等の推進とコーディネート機能の強化」はいかがでしょうか。
	《異議なし》
	それでは、5・6頁を終わりにして、7頁の3項目目「ニーズに応じた特色のある児童館づくり」に進みたいと思います。事務局に追加していただいた点としまして「（1）乳幼児親子の利用促進に向けた取組み」の「①専用スペースの整備」のところで、環境設備のことについても謳っていただきましたが、この点についてはいかがでしょうか。個人的にはこういうのをきっちり入れていただけると、それこそそれが制約となってきちんと環境整備が進むことが期待できます。いかがですか。
	《異議なし》
会長代理	「②一時預かり需要への対応」は特に大きな変更がありません。「（2）学童クラブと小学生の居場所づくり」では、「地域全体」の「地域」を入れていただきました。この7頁の「①安全・安心な居場所の確保」から8頁の「②学童クラブ需要増」「③学童クラブの育成時間の延長等のニーズへの対応」まで含めていかがでし



	<p>ようか。</p> <p>8頁の一番上のマルのところは、前回若干議論した「子どものけじめ」の部分ですが、「安全対策等、管理上の問題」になりました。ここはこれで良いと思います。よろしいでしょうか。</p>
	《異議なし》
委員	<p>その下の「安全・安心な居場所を増やすため、NPO等の地域の多様な担い手と連携して、公園等での屋外遊びや自然体験等のプログラムを実施」とあり、非常に良いことだと思いますが、「安全・安心な居場所」ということについては、今の時代、説得力があることだと思います。ここでいう自然体験や屋外遊びは、「安全・安心な居場所」というよりは、大きな人づくりに重要な場所であるということ意識して記載して欲しいと思います。</p>
委員	<p>ここについては私も関連した発言をした記憶がありますが、発想の転換をして欲しかったというのがあります。人が出て行かないところは危ないところであり、人が出て行くところこそが安全な場所になっていくという思いを、上手く表現していただくと嬉しいと思います。「安全・安心な居場所」と「屋外遊び」の二つを別々に見てしまうと、そこを理解していただくのは難しいと思います。なぜ外遊びなのかということを知っていただきたいと思います。</p> <p>私の意見としては、年1回の屋外での一プログラムでやりましょうということではありません。なかば恒常的に屋外もエリアに含めて活動していくことによって、逆にそこが安全な居場所になる。そういう思いを込めて発言申し上げました。</p>
委員	<p>放課後の子どもの居場所の再構築という大きな課題がありますから、「安全・安心な居場所の確保」ということではなく、大きな人づくりのためであるとか重要な文章に入れていただきたいと思います。</p>
会長代理	<p>(2)の大きいテーマは「学童クラブと小学生の居場所づくり」となっています。①が「安全・安心な居場所の確保」となっていて、その4番目に記述されていますが、もう少しここを変更するということですか。</p>
委員	<p>ここを例えば「放課後の子どもの居場所づくりの再構築」の一つとして記述できないかということです。</p>
会長代理	<p>安全・安心な居場所を増やすためにこういうことが必要だという記述になっていますが。</p>
委員	<p>先ほどの委員の発言と異なり、私の思いはそうです。</p>
委員	<p>恒常的に屋外で活躍することによって安全・安心な居場所になるというご発言の委員の考えと、居場所づくりの再構築の中の人育てに重要な場所というご発言の委員の考え方は違う観点になりますね。</p>
委員	<p>私の観点で言うと、主張するわけではありませんが、この場所に記述して欲しいと思います。ただ、つながりにくいですね。パッと見た人は、安全な居場所と外で遊ぶことに「どういう関係があるのか」と読んでしまうと思いますので、そこを解りやすく表現できればと思います。</p>
委員	<p>いまのご発言のご趣旨を活かすと、「NPO等の地域の多様な担い手と連携して、公園等での屋外遊びや自然体験等のプログラムを実施する」といった、児童館の出前事業について検討する必要がある」ということをまず謳い、「そのことが公園や屋外を安全・安心な居場所にしていくことに寄与していくと考える」というように逆転したらどうですか。</p> <p>これまでの議論も私は憶えています。公園というのはごく自然に子どもが遊ぶべき場所であるのに、その公園が安心・安全でないというところが問題だというご指摘だったと思います。まず、児童館の出前事業について検討し、そのことが公園や屋外を安全・安心な場所にするにつなげていくという考え方を提示するのはいかがかなと思います。</p>
会長代理	<p>そうしますとどうなりますか。</p>

委員	先ほどご発言があった、大きな人づくりの観点を取り入れても良いのですが、ここは「安全・安心な居場所の確保」の項ですので、「NPO等の」から始め、「地域の多様な担い手と連携して」から「検討する必要がある」までは記載のとおりで、「そのことが公園や屋外を本来の安全・安心な居場所にしていくことに寄与する。ないしはつながっていくと考える」というような考え方を明らかにするという事ではいかがでしょうか。
会長代理	そのことが子どもにとって安全・安心な居場所になるという意味ですね。
委員	このあたりは検討会の考え方というか訴えとして、「公園というのは子どもたちのためにもっと安全になるべきではないか」という一つの意見表明というか考え方を明確にする意味合いがあっても良いと思います。
委員	①では「安全・安心な居場所の確保」となっていますが、その上の大きな項目では「(2)学童クラブと小学生の居場所づくり」となっていますので、「人づくりとしての屋外遊びや自然体験等のプログラム」をもう少し入れても良いのではないかと思います。
会長代理	この文章の中に1項目を起こして載せるということでしょうか。
委員	委員がおっしゃるのは、この項に入れるということでしょうか。
委員	他に入れるところがございませんので。
委員	最初に「NPO等の地域の多様な担い手と」というところの頭に限定的に、「人づくりに取り組むNPO等の地域の多様な担い手」というのを一案としてご提示したいと思います。「人づくりに取り組むNPO等の地域の多様な担い手と連携して」という言葉ではいかがでしょうか。 多様な担い手ですから、人づくりだけのNPOというわけではありませんが、それを代表選手として出して、人づくりに取り組むNPO等の多様な担い手という意味合いではいかがでしょうか。
委員	「人づくり」という言葉に限定されてしまうので、そこには必要ないと思います。
会長代理	それでは、「人づくり」は入れず、「NPO等の地域の多様な担い手と連携して、公園等での屋外遊びや自然体験等のプログラムを実施する」といった、児童館の出前事業について検討する必要がある。そのことが公園や屋外を安全・安心な居場所にしていくことに寄与していくと考える」ということでよろしいですね。
	《異議なし》
会長代理	その後の「②学童クラブの需要増への対応」については、3つ目のマルが追加された項目になります。それらも含めていかがでしょうか。
委員	事務局にお聞きしたいのですが、1つ目のマルについて、区の助成だけでよろしいのでしょうか。民営学童クラブに対する助成の話ですが、区だけが頑張れば良いのですか。
児童青少年課長	国や都にも頑張ってもらいたいとは思いますが。
委員	検討会としていかがかということですが。なかなか難しい面はあるとは思いますが、本来もう少し公的な助成があっても良いのかなというご趣旨であれば、もちろん区も頑張りますが、国や都に対して聞く耳があるかどうかは別だとは思いますが。
会長代理	助成の充実を図るという点では異論はないと思います。
委員	「区が助成する」ということは絶対に入れた方が良くと思います。誰が助成するかということをはっきりさせないといけません。ここまでの案として「区の」という文言を入れたのは、全くそのとおりで異論はないと思います。
委員	少子化対策の一環として、国と都というのは入れていくべきだと思います。
会長代理	国・区でしょうか。国や区でしょうか。

児童青少年 課 長	語尾が「検討すべきである」というようになっているので、ここに「国や都」を加えても、国や都の助成の充実を区が検討してもあまり意味がありませんので、国や都に助成の充実を要望していくとともにというように、一旦文章を別にした方がよいと思います。区の立場としては国や都への要望だと思います。区の助成の充実は自分でできることですので、「充実を図ることを検討していく。あわせて国や都に対しても要望していくべきである」というような形が良いと思います。
会長代理	「運営に対する国や都に対する要望」を入れるか、「運営に対する区の助成の充実を図ることを検討すべきである。あわせて」とつなげるほうが良いのかどうかですが。「あわせて」とつなげてよろしいですね。
	《異議なし》
会長代理	その下の2つ目のマルのところでは、削除されたところがありますがいかがでしょうか。こういう表現でよろしいでしょうか。特になければ3つ目のマルまで確定してよろしいでしょうか。
	《異議なし》
会長代理	それでは「③学童クラブの育成時間の延長等のニーズへの対応」に移ります。3つ目のマルが変更になっています。この件に対してはいかがですか。これに対応する巻末の資料もありますね。
児童青少年 課 長	資料5、ページでいうと22頁になります。学童クラブについてのアンケート結果（抜粋）の大きな5番「年末の運営について」の「（1）延長した場合利用しますか」という問いかけに対して、「①利用しない」「②無料であれば利用する」「③有料でも利用する」とありまして、③の回答は217ありました。実数が学童クラブの登録児童数2763名います。世帯にすれば2200ぐらいですので、実数として全ご家庭の約1割ということになります。この表現の方が解りやすいと思いました。
会長代理	円グラフの780というのは。
児童青少年 課 長	これは回答数になります。無回答の方がいらっしゃるということです。登録児童の全ご家庭にアンケートをした結果、この項目については、回答数が780と少なく、無回答という方も一つの意味表示とみなせば、どうしても延長して欲しい人はマルをつけるだろうと考えれば、全世界帯に実施したので、その約1割といっても良いのではないのでしょうか。
会長代理	いまの点についてはいかがでしょうか。
	《異議なし》
会長代理	そしてその後のところに「現時点では、地域の相互支援の充実を図っていくことが望ましい」とありますが、「地域の相互支援」という部分が、非常にあいまい度が高いかなと思います。そのあたりはいかがでしょうか。 なんとなく親の立場からすれば、どうすれば良いのかと思います。お隣に頼むのかなとか。「地域の相互支援」という部分に対してこれ以上具体性は難しいということですか。 簡単に言えば、現時点では学童クラブでの実施は難しいということですよ。
児童青少年 課 長	そうですね。
会長代理	そして、そのことに関しては「地域の相互支援」をどこが実施するかということですね。 今回の報告書は具体性が高いので、第三者として読むと、このところがポンと放りだされたような感じがしなくもありません。 具体的な例示としてファミリー・サポート・センターの他に何かを入れるというのは難しいとは思いますが。
委 員	確かに難しいと思います。誰がどこまでやるのかという。普段の話ですが、学童に参加されている親御さんが100人いるとすると、そのうちの1割の10人を

	<p>100人で支えれば良いと私は思います。冷たい言い方をすると。普段学童に入っている、12月29日以降まだ仕事が残る人と残らない人がいると思います。仕事がある人の割合が仮に1割だとすると、どうして残りの90人で支えないのかなと思います。</p> <p>でもそれを言ってしまうと身も蓋もなく、学童の保護者の問題ということで終わってしまいますので、この検討会でどうするかというところだと思います。</p> <p>充実させていくというのを、予算と支援を強化していく方向に充実していくのか、それともこのようなご指導を申し上げて終わりにするべきなのか。議論も含めてまとめ方は難しいと思います。</p>
会長代理	<p>いまのご発言は自助努力が必要だということですが、いずれにしてもこれから先は区民が報告書を読むわけですから、「現時点では、地域の相互支援の充実を図っていくということが望ましい」というところで、区民が納得できるか。というよりはイメージできるかだと思います。</p>
委員	<p>いままでが細かくいろいろ例示しているだけに、ここだけ漠然としていますよね。ファミリー・サポート・センター事業という言葉をあえて入れないということです。</p>
委員	<p>ここをどう読むかということが、一つの問題提起になると思います。</p>
会長代理	<p>問題提起としてこれから先、みんなで考えていこうというのであれば、この「地域の相互支援の充実を図っていくということが望ましい」ということも良いかもしれませんが。</p>
委員	<p>ですからあえて具体的などこかの機関を入れるというのではなくて、一つの問題提起として読んでいただくことが必要ではないかと思います。</p>
委員	<p>具体的な名称ではなくても、もう少し何かイメージしやすい言葉はないですかね。「相互支援」というとあまりにも遠いような気がします。</p>
会長代理	<p>検討会として、区民から「これどういうことですか」と聞かれたら答えられないといけません。</p>
児童青少年課長	<p>ここについては、先ほど委員が「クラブ利用者で支え合えないのか」と言われたように、私どもとしては「預け預かり」というような、学童クラブに登録している世帯だけに限らず、地域の中で、おじいちゃんおばあちゃんだけで住んでいるところでもいいでしょうし、そういう地域の中での「預け預かり」ができないものかというように考えています。</p>
委員	<p>それが「地域の相互支援」というわけですね。</p>
児童青少年課長	<p>実際に学童クラブの夏休みの問題もあります。朝8時から預かって欲しいという早朝延長の要望もあつたりします。需要としては、やはりすごく少ないのですが、自分が会社に行くときに、子どもを学童に預けていきたいという強いニーズをお持ちの方もいらっしゃいます。そういうニーズについても、相互支援という形を少しずつ充実させていくことができないかという思いはあります。</p>
委員	<p>登録制が始まったことにより、ある程度保護者のニーズが満たされてきますと、保護者同士の連携がかえって弱体化しつつあります。我々の組学童クラブ父母連絡会の組織についても然りです。保護者同士のお互いの協力関係が弱体化している気はします。そういった意味では「相互支援の充実を図る」というよりも「促す」というようなことが必要かなという気が私としてはします。</p>
委員	<p>そういう実感があるわけですね。</p>
委員	<p>「保護者同士の預かり」ですかね。</p>
会長代理	<p>「保護者同士の預かり等の地域の相互支援の充実を促す」ではどうですか。</p>
委員	<p>保護者だけですか。</p>
会長代理	<p>それで「等」を入れたのですが。</p>

委 員	地域や家庭という言葉を入れたらどうですか。
会 長 代 理	いま私たちが具体的なイメージとして持っているのは、保護者同士というのがありますし、地域の自助もあります。ファミリー・サポート・センター事業のようなシステム自体を開発しなければいけないこともあると思います。ただ、まだそこまで議論を進めていませんし、具体的なことは打ち出せません。
委 員	そのままでもいいかもしれませんね。
委 員	広い意味で投げかけてもよろしいのではないのでしょうか。
委 員	私もこの仕事を20数年間やっていますが、以前でしたら保護者同士で預かりあっていました。私たちも「何さんのおうちは仕事がないので、聞いてみたら」と斡旋のようなこともしていましたが、いまはとても言えません。要望として預かって欲しいという状態の中では、区や児童館からはなかなか言いにくくなっています。そういう弱体化しているところは強化していきたい気持ちはあります。 時間延長にしてもそうです。この検討会では、すべて区がやることではないという判断もありましたし、年末の29日以降についてもそのようなことでした。それをどう上手く問題提起できるかということです。
委 員	「地域の相互体制」ではなく「地域や保護者の相互体制」として良いと思います。
委 員	先ほど出ていた「促す」という言葉がすごく適切だと思います。
委 員	「保護者」だけでなく「家庭」だと思います。親だけではなくおじいちゃんおばあちゃん、兄弟いろいろな関係がありますので、あえて入れるのであれば「家庭」だと思います。
会 長 代 理	「地域や家庭の相互支援」ということですか。
委 員	「保護者」というニュアンスは、おじいちゃんおばあちゃんが保護者になっているなどいろいろな家庭がありますので、別に「家庭」という言葉をいれなくても「保護者」で素直におさまると思います。
委 員	「保護者」というのは預けている当事者で、「家庭」というのはもう一回り外、「地域」はさらにもう一回り外です。どこを使うかということです。はっきりするのは「保護者」とすることだと思います。
委 員	保護者同士の交流も含めた意味ではっきり書いた方が良いと思います。
会 長 代 理	「地域や保護者の相互支援」でよろしいですか。
委 員	「地域や保護者の相互支援の充実を促す」とした方が良いと思います。
児童青少年課 長	それですと地域と保護者が並列ですので、保護者をどうしても出したいのであれば、「保護者をはじめ地域における相互支援」になると思います。
会 長 代 理	「保護者をはじめ地域における相互支援の充実を促す」にしたいと思います。
委 員	もう一つこの文章の中で「保育園のような拠点方式」という言葉がありますが、一般の人から見ると解りにくいと思います。我々はここで学んできているのでどういふものか解りますけれども。
委 員	下に注釈で入れたらどうですか。
事 務 局	注釈を入れたいと思います。文言はお任せいただきたいと思います。
会 長 代 理	「(3) 中・高校生の居場所づくりと自立応援の推進」「(4) 障害児の放課後支援の充実」は大きな変更はありませんが、確認していただいて何かありますでしょうか。 10頁に「特別支援教育の取り組みが進められる中」の後で「学校やこども発達センターなど」とありますが、この「こども発達センター」に注釈がありませんが、他の文言には丁寧に注釈がついています。もし可能であればお願いします。
児童青少年	注釈を追加したいと思います。

課 長	
委 員	「こども発達センター」の「こども」はひらがなですか。
児童青少年課 長	ひらがなになります。
会 長 代 理	「(5) 保護者・家庭支援の充実」の3つ目のマルのところは、一部変更になっています。いかがですか。
	《異議なし》
会 長 代 理	よろしければ第4項目目「区民・NPO等との協働等の推進」に移ります。ここは新たに書き起こしていただいたところですが、お気づきの点はございますか。よろしいでしょうか。
	《異議なし》
会 長 代 理	特にご意見がないようですので、これで全体を確認したということで報告書(素案)を確定させていただきたいと思います。細かい修正については会長に報告したいと思います。報告書(素案)についての討議を終了します。どうもお疲れ様でした。
5 今後の進め方について	
会 長 代 理	今後の進め方について、事務局から説明をお願いします。
児童青少年課 長	《資料40について説明》
児童青少年課 長	今日ご意見をいただきました報告書(素案)の修正版につきましては、9月下旬の保健福祉委員会直後に、表紙をきちんとつけて資料も合わせて、皆様のごところにご郵送させていただきたいと思います。あわせて、本日の議事録もご郵送させていただきたいと思います。議事録につきましては、毎回その次の検討会で、ご確認いただき確定させていただいていきましたが、次の回となりますと11月になってしまいますので、郵送する際に期日を決めさせていただいて、何かあればその期間中に事務局までお寄せいただき、もしなければその時点で議事録を確定させていただいて、今回の資料を議事録とあわせてホームページに公開していきたいと思います。
会 長 代 理	今後の進め方について、よろしいでしょうか。どういう反応があるか楽しみなどころでもあります。次回は11月下旬に最後の会議になります。
6 閉会	
会 長	《閉会挨拶》